

きょうから学生オリエンテーリング大会
正式
 大会
 笑開

第24回日本学生オリエンテーリング選手権大会（日本学生オリエンテーリング連盟主催、毎日新聞社から後援）の開会式が8日、矢板市本町の市文化会館で開かれた。競走選手と観客が、全国から約850人が学生日本一を競いあう。山口公久矢板市長は「練習の成果を競う」と共に、快汗を流して充実感を味わい、友情の輪を広げられるよう激励します」とあいさつした。選手宣誓では、後藤正幸さん（山口大3年）と西川美紀子さん（東京農工大2年）が、「矢板の坂を転がり落ちるように、やぶをのりぬぎ、最後まであきらめずに走り抜くことを誓います」とユニークな選手宣誓を披露した。【熊谷作】



選手宣誓する西川美紀子さん（左）と後藤正幸さん（左から2番目）

毎日新聞/2002年3月9日 朝刊

学生オリエンテーリング開幕
 行く道探し踏破せよ

高原山周辺

【矢板・塩谷】第二十を、自ら道を通り踏破する。四回日本学生オリエンテーリング選手権大会（イオンカレ）が8日、矢板市と塩谷町にまたがる高原山周辺で始まった。本県開催は二〇〇〇年の日光大会以来で、全国五十五大学から計八百五十選手が集まり、最も厳しいクラスは距離十キロ、高低差五百近いコースの「正解」がない点がこの競技の魅力」と言う。



開会式で行われた優勝杯返還。55大学が、高原山でのしぎを磨る

高原山は速度は出るがその分ミスもしやすく技術の必要な場所。林業が盛

下野新聞/2002年3月9日 朝刊

第24回学生オリエンテーリング大会

55大学・850人が快走

第24回日本学生オリエンテーリング選手権大会は、10日、毎日新聞社で開かれた。参加校は、東京府と東京都の境りにある高尾山をめぐって、約10キロのコースを走り、ゴールを目指した。男女10・6名、女子7・8名の参加があった。男子は、筑波大の小林悠司さん、女子は、筑波大の山本真美選手が優勝した。男子は、筑波大の小林悠司さん、女子は、筑波大の山本真美選手が優勝した。男子は、筑波大の小林悠司さん、女子は、筑波大の山本真美選手が優勝した。



快走してゴールする男子選手

毎日新聞/2002年3月10日 朝刊

男子は、筑波大の小林悠司さん、女子は、筑波大の山本真美選手が優勝した。男子は、筑波大の小林悠司さん、女子は、筑波大の山本真美選手が優勝した。男子は、筑波大の小林悠司さん、女子は、筑波大の山本真美選手が優勝した。

リレー競技で激戦
学生オリエンテーリング大会
第24回日本学生オリエンテーリング選手権大会（日本学生オリエンテーリング連盟主催、毎日新聞社など後援）は最終日の10日、矢板市と塩谷町にまたがる高尾山ろくでリレー競技が行われた。連日の春の陽気の下、全国の大学生がチームワークを競い、盛大な応援が繰り広げられた。
最高峰の「選手権の部」には男子27校、女子24校が参加。男子は4人、女

子は3人でチームを組んで総合タイムを争った。まれに見る激戦の末、男子は京都大が5年ぶり3回目の優勝、女子は東京女子大が初制覇を果たした。
男子は最終走者で京都大と東京大の一騎打ちとなった。引き継いだ時点で1分39秒リードされていた京都大だったが、前日の個人戦で2位に入った4年・許田重治選手が落ち着いたレース運びで残り1キロを切った地点で追い抜き、逆転優勝を果たした。女子は第一走者で優勝候補の筆頭だった京都大がポスト不通過でまさかの失格となり、筑波大がレースを主導した。最終走者の東京女子大4年、山本真美選手は、筑波大との7分8秒差を、無駄のないコース運びで一気に詰め、トップを奪いゴールインした。次回は来年3月、愛知県で開催される。【熊谷洋】

毎日新聞/2002年3月11日 朝刊



日本学生オリエンテーリング選手権大会

3月8日から10日にかけて本市と塩谷町で、第24回日本学生オリエンテーリング選手権大会が開催されました。日本一に輝いたのは次の大学・選手です。

★クラシック競技

男子選手権クラス 1位 小泉成行 筑波大学4年

女子選手権クラス 1位 番場洋子 京都大学4年

★リレー競技

男子選手権クラス

1位 京都大学

岡野健太郎(4年)・西尾信寛(3年)・

新宅有太(2年)・許田重治(4年)

女子選手権クラス

1位 東京女子大学

田島聖子(3年)・川島沙耶香(2年)・

山本真美(4年)